

あまいじいちゃん

ぼくとじいちゃんには、血のつながりがない。

二年生の時に、ぼくにお父さんができた。

じいちゃんは、お父さんのお父さんだからだ。

じいちゃんは、家族になった日、ぼくに

「今日から家族だよ。よろしくね。何かあった時は、いつでも頼っておいで。」

と、言ってくれた。

じいちゃんは、ぼくを血のつながりがあるかのように、ものすごく可愛いがってくれる。サッカーが好きなぼくを、公園に連れてつては、一緒にサッカーをしてくれる。サッカーの試合があれば、応援に来てくれて、ゴールを決めると、いっぱいほめてくれる。

そんなじいちゃんは、ぼく達がじいちゃん家に会いに行くと、よく庭でバーベキューをしてくれる。じいちゃんが焼く、肉や魚はとてつもなくうまい。だから、みんなが自然とじいちゃんの側が集まっていく。その時は、お父さんとじいちゃんが一緒にお酒を飲む。ぼくは、その中に入って、一緒におしゃべりする時間が好きだ。いつかお酒を飲めるとし

になったら、お父さんとじいちゃんと一緒にお酒を飲んでみたい。きつと今以上に楽しい時間になるにちがいない。

そして、ぼく達が帰る前にいつも、

「琉生、アイスあるぞ。」

と、冷凍庫をじいちゃんが開けると、ぼくの好きなガリガリ君のアイスが必ず入っている。

じいちゃんは、ぼくに優しい。優しいから、お父さんは、じ

いちゃんに、

「孫にあまい。」

と言う。じいちゃんは何も言い返さず、ニコニコしているだけだ。ぼくも、じいちゃんはぼくにあまいと思う。でも、ぼくはそんなじいちゃんが好きなんだ。

そのぼく達の様子を、お母さんは嬉しそうにほほえんで見ている。ぼく達が仲よくしている姿をみると幸せだと言う。

じいちゃん、これからも、いっぱいぼくにあまえさせてね。そして、あと九年経った時、お酒を持って、遊びに行くね。その時はぼくが、おいしいお肉と魚を焼いてあげよう。

菅原 琉生